

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>		-	<b>4.1</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.6</b>	0.15		-	<b>3.6</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-	
1.2 遮音		<b>4.2</b>	0.40		-	
1 開口部遮音性能	T-2にて計画	5.0	0.60	<b>3.0</b>	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	<b>3.0</b>	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
1.3 吸音	床:カーペット、天井:岩綿吸音板	<b>4.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.9</b>	0.35		-	<b>3.9</b>
2.1 室温制御		<b>3.6</b>	0.50		-	
1 室温		3.0	0.38	<b>3.0</b>	-	
2 外皮性能	外壁 0.793W/mK 屋根 0.526W/mK 窓2.5W/mK SC 0.62	4.0	0.25	<b>3.0</b>	-	
3 ゾーン別制御性	室単位での冷暖切替が可能	4.0	0.38		-	
2.2 湿度制御		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
2.3 空調方式	輻射空調を採用	5.0	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3 光・視環境</b>		<b>4.2</b>	0.25		-	<b>4.2</b>
3.1 昼光利用		<b>4.0</b>	0.30		-	
1 昼光率	昼光率2.33	4.0	0.60	<b>3.0</b>	-	
2 方位別開口			-		-	
3 昼光利用設備	吹抜部4階窓は頂側窓の機能として計画	4.0	0.40		-	
3.2 グレア対策		<b>4.0</b>	0.30		-	
1 昼光制御	ブラインド+庇(南側太陽光パネル部)	4.0	1.00		-	
3.3 照度	タスク+アンビエント	<b>4.0</b>	0.15		-	
3.4 照明制御	MILCO.NETと画像センサー制御	<b>5.0</b>	0.25		-	
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.8</b>	0.25		-	<b>4.8</b>
4.1 発生源対策		<b>5.0</b>	0.50		-	
1 化学汚染物質	内装仕上げはF☆☆☆☆、低VOC建材を使用	5.0	1.00	<b>3.0</b>	-	
4.2 換気		<b>4.3</b>	0.30		-	
1 換気量	必要換気量×1.2倍	4.0	0.33	<b>3.0</b>	-	
2 自然換気性能	居室床面積の1/30の自然換気有効開口面積を計画	4.0	0.33	<b>3.0</b>	-	
3 取り入れ外気への配慮	汚染源のない方位に向け、各排気口からも6m以上離れている	5.0	0.33		-	
4.3 運用管理		<b>5.0</b>	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視	中央監視センターにてCO <sub>2</sub> を監視し、管理マニュアルを整備	5.0	0.50		-	
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	0.50		-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>		-	<b>4.0</b>
<b>1 機能性</b>		<b>4.1</b>	0.40		-	<b>4.1</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.3</b>	0.40		-	
1 広さ・収納性		3.0	0.33		-	
2 高度情報通信設備対応	コンセント40VA/㎡以上	4.0	0.33		-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性		<b>5.0</b>	0.30		-	
1 広さ感・景観	実証室天井高3.1m	5.0	0.33	<b>3.0</b>	-	
2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース執務室の26%+自販機、カフェ	5.0	0.33		-	
3 内装計画	デザインコンセプト、機能演出、照明計画、バース検証を行った	5.0	0.33		-	
1.3 維持管理		<b>4.5</b>	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い仕上げ、建材、金属部材メッキ処理	4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保	廃棄物・リサイクル・粗大ゴミのスペースを確保している	5.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.8</b>	0.30		-	<b>3.8</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.8</b>	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	保有水平耐力1.25倍	4.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.8</b>	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:カーペット、天井:化粧石膏ボード	5.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出ダクトにはガルバリウム鋼板を採用	5.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水 VP→B、給湯 SUS→C、排水管 VP→B	5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-	
2.4 信頼性		<b>3.8</b>	0.20		-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備	飲料用に受水槽へ蛇口を設置、節水型便器採用	4.0	0.20		-	
3 電気設備		3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20		-	
5 通信・情報設備	精密機器を浸水の危険がない場所へ設置、地域防災無線設置	5.0	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高4.5m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.17	4.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>4.4</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	シャフトの予備スリーブ対応および点検口の設置	4.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	シャフトの予備スリーブ対応	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	配線の主要な部分はケーブルラック 点検口もしくはシステム天井で更新可能	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	配線の主要な部分はケーブルラック 点検口もしくはシステム天井で更新可能	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	主要機器の将来用スペースを利用して、 バックアップも行えるとしている	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	2~4F設備バルコニー、1階設備ヤード	4.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		立地特有の生態系に悪影響を及ぼす外来種の駆除等を行う	<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	アトリウムを用いて、開放的な空間としている	<b>5.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>4.3</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>5.0</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPI=0.67	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>		ケルチーフを採用	<b>5.0</b>	0.10	-	-	<b>5.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		BEI=非住宅 -0.03 住宅(専用部) -	<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>5.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	エネルギー消費の把握、妥当性確認、効率評価(4種以上)が可能	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	電力消費量の目標値を計画	5.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>		自動水栓、大便器6L/回	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>4.1</b>	0.60	-	-	<b>4.1</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		高炉スラグ骨材	5.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		磁器質タイル(グリーン調達品目)、OA707・インターロッキング(エコマーク)	5.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		躯体+軽鉄+仕上げ材、OA707	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.9</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		CO2排出率24%	<b>5.0</b>	0.33	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>		燃焼機器なし	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.7</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	基準を上回る量を確保	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミの種類や量を毎月集計し、ゴミ処理負荷低減対策を行なっている	5.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明を行っていない	5.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	